柳井日日

柳井金魚ちょうちんの歴史 ③

柳井市社会教育指導員 松島幸夫

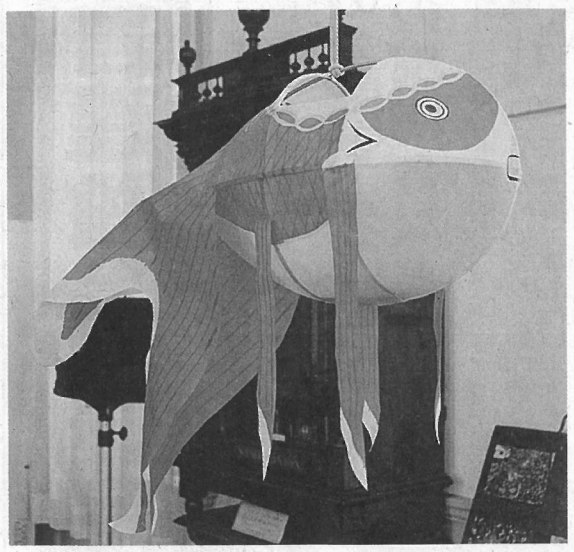
【③西廻り航路の隆盛】

江戸時代の後半から明治時代にかけて、北海道や日本海沿岸の産物が、北前船による西廻り航路によって瀬戸内海や大阪・京都にもたらされた。その西廻り航路は経済ルートであるとともに、文化ルートでもあった。沿岸の港町には、大量の富がもたらされるとともに、北方からの文物も移入した。

西廻り航路にあたる沿岸には、津軽の「金魚ねぷた」が伝来している。新潟の新発田では、大型の金魚を作って山車に載せ、多くの子供たちが引き回している。それを小型化し、「ちょうちん」風の灯火玩具にもしている。ちなみに、同じ新潟の三条、村上、巻町では「鯛」を山車に乗せた形の灯火玩具がある。「金魚ねぷた」にヒントを得て、地元で水揚げされる鯛に替えたのであろう。

柳井津の豪商たちは、自ら回船を所持して日本海岸にも出向いて売買を行い、大いに繁栄した。江戸時代に繁栄を謳歌した柳井津は、岩国吉川藩の御納戸と呼ばれた。岩国領の経済活動の要を担っていたのである。扱った商品は柳井の特産品である、菜種を絞ってつくる「灯油」「柳井縞」などの綿織物、製塩にともなう「醤油」などであった。そうした活気あふれる柳井津には、日本海沿岸の玩具や風習も伝わって来た。柳井津の回船が津軽にまで足を延ばした記録はないが、北陸までは足繁く通っている。津軽の「金魚ねぷた」は、日本海沿岸の港町を経由して、間接的に柳井津に伝来したのであろう。柳井津の町人たちは珍しい文物を抵抗なく受け入れ、楽しんだ。

最近のことではあるが、「柳井金魚ちょうちん」にヒントを得て、柳井市大畠では「鯛ちょうちん」がお目見えしている。

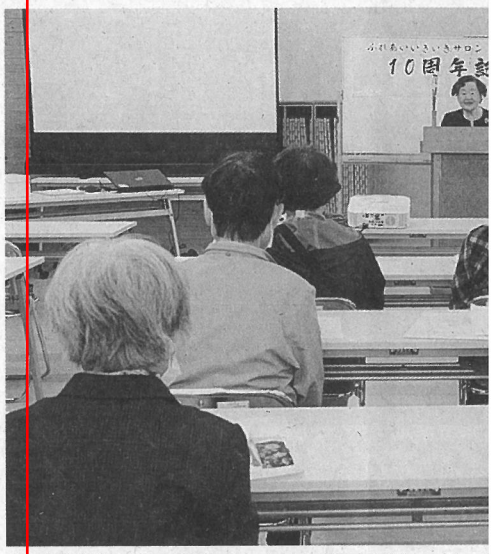


【④柳井への金魚ちょうちん伝来】

柳井津の豪商は日本海沿岸に交易圏を広げており、回船が足繁く通っていた。その西廻り航路の海運によって、津軽の「金魚ねぷた」が柳井津へもたらされた。柳井津の町人は、それを真似て「金魚ちょうちん」を製作した。伝来の時期は、幕末であろうと言われている。

津軽の「金魚ねぷた」と柳井の「金魚ちょうちん」は、名称が違うだけで、その系統を引き継ぐものである。したがって、当初の柳井の「金魚ちょうちん」は、津軽の「金魚ねぷた」に酷似しており、口は横に長く、尾ひれは立ち上がっていた。やがて柳井の「金魚ちょうちん」は長期間を経て、立っていた尾ひれが垂れ下がるなど、愛嬌のある形態に変化した。

（写真は第二次世界大戦前後の金魚ちょうちん）



の会を続けていきたい」とあいさつした。

市社会福祉協議会の杉森定夫会長や市健康福祉部の日浦隆雄部長、新庄地区民生委員児童委員協議会の芦岡啓子会長らがお祝いの言葉を述べた後、この1年間、一度も休まず活動に参加した杉山富子さんに皆勤賞として、記念品の金魚ちょうちんが贈った。

が数年前から開設しているホームページの便利な機能を利用者に紹介し、ネット利用の促進を図ろうと、今回初めて開いた講座。

この日は、応募のあった女性3人が受講し、図書館司書から説明を受けた。講座では、それぞれがスマホを片手に、同館のホームページを開き、借りたい本を予

来局者に観光

柳井市内全郵便局 14局内に初め

柳井市内の全郵便局（14局）は今年2月から、各局内に市内の観光案内コーナーを設置し、来局者に観光情報を提供している。

各局の局長らが月1回集まって行っている柳井部会の会議で、「郵便局も柳井観光に協力しよう」と決めたもので、全局共同で観光PR活動を展開するのは今回が初めて。

この取り組みは、連携する市や市観光協会から提供を受けた観光マップや観光パンフレット、柳井ブランドの冊子といった統一資料を、各局が局内の一角に案内コーナーとして設け、来局者に情報発信。局によっては、地域性にあった観光マップも掲出している。

市内南町7丁目の柳井南町郵便局の田村敬子局長は「柳井市の良いところを再発見してもらったり、局周辺の

お店や観光スポ
知ってもらうき
になっている。
レットを持ち帰
者もおり、反応
将来的には、郵
市が連携した新
ップなどを作れ
れしい」と話し
各局では、午
から午後5時ま
できる。毎週土
と祝日は休み。

観光案内コー
設置している局
通り。

◎柳井郵便局（
良窓口営業部長
◎阿月郵便局（
英局長）
◎大畠郵便局（
己局長）
◎大畠遠崎郵便
波忠局長）
◎伊陸郵便局（
行局長）
◎柳井新庄郵便
野義昭局長）
◎神代郵便局（
志局長）
◎日積郵便局（

った。

約をしてほし